本校の校長が代わりました

ご挨拶

校長　高橋　貢

今年の冬、秋田は大雪でした。特に、横手・湯沢では一月の観測史上最高の積雪量を記録するなど、非常に厳しい雪との戦いでした。

そして、卒業式も終え、やっと春を迎える喜びをかみしめはじめた矢先、あの巨大地震がありました。秋田では幸い大きな被害はなかったとはいえ、隣県の惨状は、同じ東北人として、いや日本人として、一切の言葉を失うほどの衝撃でした。テレビでニュースを見るたびに涙が出た、という生徒もたくさんおります。

生徒は、今回の大震災をとおして何を感じ、どのようなことを考えたのでしょうか。話を聞くと、少なくとも、他人事として考えている生徒は一人もいませんでした。それが大きな救いです。

人の痛みや悲しみを思いやる想像力のない人間は、勉強しても無意味でしょうし、世の為人の為にならない学問には、何の価値もないということも自明です。今回学び取ったこうした教訓を、生徒諸君には、将来にわたって是非生かしてほしいと願っています。

申し遅れましたが、今春校長として着任した高橋貢と申します。昭和四十七年卒の若輩（？）ですが、全力で頑張りますので、御支援のほどよろしくお願い申し上げます。

三年間を振り返り

前校長　菊谷　一

三年前に大役をおおせつかり一抹の不安もありましたが、無事に職責を全うすることができ、ほっとするとともに母校勤務で定年退職を迎えた喜びをかみしめております。これも多くの同窓諸氏のご支援やご協力の賜と感謝申し上げます。

しかし、この度の東日本大震災の惨状には慄然としました。被災されました岩手、仙台、茨城の各支部の皆様に謹んでお見舞い申し上げます。

本校は創立以来、百三十七年もの歴史を刻んでまいりましたが、その歴史に相応しい光輝ある伝統を受け継ぎながらも、清新の気を吹き込み、さらに新しい伝統を築くべく教育に当たってきたつもりであります。しかしながら、急速に進む少子化に伴う学級減への対応、標榜する「文武両道」に見合った成果、知識基盤社会の到来に相応しい能力の育成、グローバル化に向けた体制づくり等、取り組まなければならない課題は山積しております。今後も同窓諸氏の叡智をお借りしなければならない場面が数多くあろうかと存じますが、ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

結びに、本校を巣立った生徒諸君には校歌にもありますように、理想を高く持ち、世のために尽くし、四方に母校の誉れを拡げてもらいたいと願っております。

切り取り線

平成23年６月25日㈯の

『総会（２時～３時30分）』に
出席します　　欠席します

『講演（３時30分～４時30分）』に
出席します　　欠席します

『懇親会（４時30分～）』に
出席します　　欠席します

（どちらかを◯で囲んでください）

卒業年次（昭和・平成）

ご氏名

電　話

締切日は６月15日㈬です

滑 川 医 院

滑　川　五　郎
（昭和31年卒）

大仙市長野字九日町15-1
TEL 0187（56）3121
FAX 0187（56）2315